

shida sousei kaihou

志太創生会報

わたしたちが目指すのは
「志太の未来の創造」

2020.November

発行所

〒426-8722 藤枝市岡出山1-11-1

藤枝市議会「志太創生会」

TEL&FAX.625-7373

shida-sousei.jp

info@shida-sousei.jp

編集・制作：平井 登


印刷：鶴共立アイコム

国・県に呼応 本市のスピード感と独自性のあるコロナ対策

市民の理解と努力により、感染拡大は抑止されている

歴史的緊急事態をもたらし新型コロナ感染症から市民の命と生活を守るため、本市は国県と呼応し総力を挙げた感染予防対策、救済対策を施している。これまでの7ヶ月間を振り返り、主要な施策を時系列的に一覧化した。紙幅上すべてを網羅できないが、市民一人ひとりを大切にしたい取り組みが窺える。

対策	内容	期間など
藤枝市新型コロナウイルス感染症対策本部設置	国の緊急事態宣言と「新型インフルエンザ等対策特別措置法」に基づき、4月7日から設置している	緊急事態宣言期間は4月7日～5月14日
小中学校の臨時休校・段階的再開	3月3日から対象となり5月31日まで延長されたが、段階的に再開され、5月25日からは通常登校になる	3月3日～、5月25日から通常登校
【市独自】 感染拡大防止協力店舗支援金	県の休業要請対象者に加え本市独自の事業者(飲食業・宿泊業)に30万円支給	休業要請期間 4月25日～5月6日
特別定額給付金	国民一律に1人10万円を支給	5月1日～8月18日
新型コロナ感染者傷病手当金	新型コロナに感染した者、または感染が疑われる者に対し、仕事ができない期間の給与の2/3支給	対象療養期間 1月1日～12月31日
雇用調整助成金	前年同月比売上が5%以上減少した事業所が労働者を解雇しないよう1万5千円/1日を助成	2月14日～12月31日
持続化給付金 (中小法人、個人事業者向け)	売上が前年同月比50%以上減少した個人事業主に100万円と大企業を除く法人企業に200万円支給	5月1日～R3年1月15日
【市独自】 プレミアムランチ券	頑張る飲食店を応援するため市民の自宅での食事を推奨(3千円分のランチ券を2千円で販売)	発売 5月1日、5月8日 使用期間 5月31日まで
子育て世代臨時特別給付金	0歳から中学3年生まで1人当たり1万円給付	7月1日～11月30日
学校・福祉施設・避難所等の 感染防止対策	小中学校、福祉施設、指定避難所の感染防止用品などの購入助成	5月・6月・9月補正
【市独自】 指定管理者等の事業者支援対策	臨時休館、利用限定等による休業補償、学校給食休止の影響を受けた事業者への補償など	5月・9月補正
医療体制の充実	市立総合病院の感染症防止対策と対応のための、人工呼吸器、リアルPCR装置、陰圧テント、薬品購入など	6月・9月補正
感染症対応従事者支援	新型コロナに対応する医療従事者の宿泊施設借上や感染リスクの高い医療・介護従事者への慰労金支給	5月・9月補正
【市独自】 泊まって藤枝キャンペーン	経済的打撃が大きかった市内宿泊者を応援するため宿泊者に旅行代金の一部をキャッシュバック	6月16日～8月31日
家賃支援給付金・住居確保給付金	家賃の支払いが困難になった事業者と感染拡大の影響により住居を失うおそれのある困窮者への支援	住居確保給付金は6月補正で増額
【市独自】 中小企業事業継続支援給付金	国の持続化給付金、市の農業生産応援給付金の支給対象外の事業所・店舗に10万円支給	6月8日～8月31日
【市独自】 農業生産応援給付金	市民の食を支え、日夜生産に取り組んでいる農業者の営農の継続を支援(1人10万円)	6月8日～8月31日
Go To トラベル キャンペーン	移動自粛により大打撃を受けた観光業を支援するため旅行代金等を大幅助成	7月22日～
【市独自】 キャッシュレス決済ポイント還元	市内店舗の支援と非接触型の会計方法を推進するためPayPay利用者に10%還元	8月1日～8月31日
ひとり親世帯臨時特別給付金	ひとり親世帯の減収を支援するため1世帯5万円、第2子以降1人につき3万円支給	9月1日～R3年2月末
学校 ICT 環境の整備	児童・生徒が学校や自宅で使う1人1台パソコン端末を整備。11,033台、貸出用Wi-Fiルータ820台	R3年2月末までに完備
税、保険料等の徴収猶予・減免	売上減少や収入減による市税・国民健康保険料・介護保険料等の支払い困難者の納税猶予、減免措置	R2年2月以降に納期限がくるものが対象
【市独自】 行くなら藤枝 キャンペーン	STAY(泊まりに)・EAT(食べる)・EVENT(遊びに)・BUY(買い物に)・ACT(活動するなら)による経済振興策	10月26日～R3年3月末



◆「PCR検査」体制について

新型コロナウイルス感染症に罹患しているか、いないかを診察できる「PCR検査」を適切に行うため、本市では志太医師会の協力のもと、「地域外来検査センター(PCR検査センター)」を公共施設駐車場に、6月19日から設置。これまでに140人が検査を受けている。 ※次ページに詳細を掲載

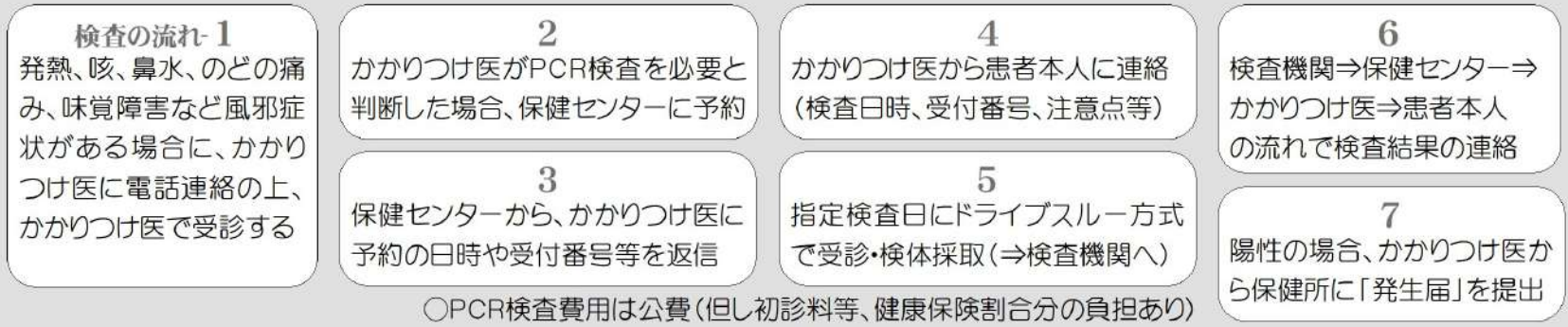
新型コロナウイルス感染症防止対策「PCR検査センター」について

市民の身近なかかりつけ医や藤枝市立総合病院に、感染力の強い新型コロナウイルスに感染した患者が来院することを回避するため、志太医師会の出張診療所として市内の公共施設駐車場に設置されたのが「地域外来・検査センター(PCR検査センター)」である。この施設の概要や予約方法、検査の流れ、これまでの検査実績などをまとめてみた。



〈検査方法〉
唾液または鼻腔

- 設置方式 ドライブスルー方式(医療従事者用プレハブ、テント併設)
- 設置日時 令和2年6月19日～、月・火・水・木・金の平日、13時から15時の間の1時間
- 設置場所 市内公共施設の駐車場(※非公開)



■PCR検査センターでの検査実績(10月27日現在 男性85人・女性55人 計140人実施。うち、陽性者は1人のみ)

10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
3人	22人	26人	20人	28人	17人	9人	12人	3人	140人



令和元年度

4日間の集中審議の結果、承認される

決算審査

決算特別委員会の質疑から抜粋

志太創生会の決算委員：遠藤久仁雄議員・増田克彦議員

	質疑要旨	答弁要旨
総務文教	●原子力災害対策事業費(1,373,318円)について 安定ヨウ素剤を、すべての市民に配布するため市独自で購入し市内の2箇所に保管してある。しかし、これでは有事の際に避難する市民に迅速に配布し、正しく服用させることは困難であると考えます。	国が定める指針では、県内のUPZ圏は、事前の配布対象地区となっていない。なお実際の配布にあたっては、2箇所の保管場所から安定ヨウ素剤を、救護所となり得る場所や避難待機時検査場所へ運び、緊急配布する予定である。
	●教員の働き方改革支援事業費(1,592,468円)について 多忙化解消委員会と部活動検討委員会がそれぞれ年1回しか開かれていない。特に中学校教員が部活動指導で多忙の中、検討回数問わずか1回というのは十分だとは言えないと感じる。	部活動が働き方改革の大きな壁になっているので、この改善のための議論を今後深めていく。委員会を活性化させ、部活動指導者、外部指導者の人材発掘について努力する。
健康福祉	●放課後等デイサービス給付費(386,192,671円)について 障害児の居場所の確保と療育支援を行うため、近年需要が多くなっている。本市で事業所のサービスの確認や指導をどのように行っているか。	多くの業者が参入し、現在16事業所となっている。利用者には毎年、制度や事業所の紹介を行い、相談事にも対応している。また、事業所には年3回の自立支援協議会の中で勉強会の場を持ち、的確な指導を行っている。
	●れんげじスマイルホール改修事業費(71,073,120円)について 大型遊具の設置が予算化されていたが、規模が大幅に縮小された理由を伺う。またこのような大型予算を要する建造物には、建物の構造の調査とともに設計・仕様等の説明を求めたい。	予算措置した大型遊具は天井吊り下げネット形式であったが、天井の構造上、耐荷重性に問題があったので規模を縮小した。事前に十分な準備や検証を行うべきであったと考えている。市内の公共事業についての考えと取組を、庁内統一して対応しなければならぬ。
建設経済環境	●市環境衛生自治推進協会補助金(14,684,682円)について ゴミの分別回収や集積所の管理など、環自協委員の働きによるところが大きい。不法投棄があった場合の処置について伺う。	分別の不適当なゴミ袋は、黄色の注意書を貼り、集積場所に残して置き、出した人が持ち帰るよう促している。ただし生ゴミが含まれている場合は、市に連絡を頂ければ直ぐ回収する。誰が出したゴミか調べたいだろうが、トラブルにもなりかねないので開封しないようお願いする。
	●瀬戸谷温泉ゆらく施設整備納付金(6,250,685円)について この収入は、平成30年度に指定管理者の事務手続きにミスがあり、1年遅れで納入された。また、令和元年度の納付金はないようだが、どうなっているのか。	令和元年度は、内湯棟の修繕やコロナ禍による休業要請などで営業期間が短かく、収入が十分でなかった。その状況で納付金を支払うと経営が困難となるため、市と指定管理者「ふるさと瀬戸谷」で協議し納付金を免除した。

9月議会

一般質問

「コロナ・ショックが変える『まちづくり』」
第6次総合計画策定方針への影響を問う



平井 登 議員



首都圏から地方への潮流に込えられるか？

問 都市構造上、3密環境にさらされやすい首都圏では、地方への移住・移転を望む人々や企業、大学が増えることが予想される。本市の地理的位置や住環境、産業構造を生かした受け皿づくりの新たな政策方針を示しているか伺う。



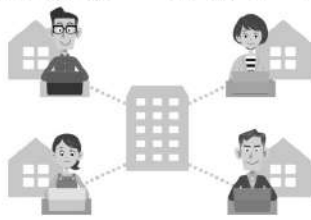
答 新型コロナウイルスによって、東京一極集中の脆弱性が浮き彫りとなり、地方に還流する機運が高まっている。第6次総合計画では、本市の「ほどよく都会、ほどよく田舎」の魅力と広域アクセス性、ICT環境などの強みを最大限発揮し、「多極分散型社会における拠点都市づくり」

レワークを進めている。今回の流れを受け、さらに一歩先を行く環境づくりを進めるべく「新しい日常、生活スタイルへの対応」を政策方針として、先駆的に取り組むICT活用との連動により、行政サービスや医療、教育、産業等のあらゆる分野で新しいスタイルを取り入れる。

を大きな柱として掲げ、人・モノの流れを呼び込むまちづくり、仕掛けづくりを進める。また、本市の中山間地域は、市街地から十数分でアクセスでき、光ファイバー網によるネットワーク環境も整った大きな強みがある。この機を中山間地域再興のチャンスと捉え、例えば陶芸などの文化資源を観光資源に結びつける新たな構想を練っている。この地を訪れ活動する人と地域住民とのつながりを生むコミュニティをつくり、活力あふれるまちづくりを進める。

7割経済による税収減に込えられるか？

問 リモートワーク、テレワークと呼ばれる非出勤型の働き方は、ウイルス感染拡大防止や時間の有効活用



の面で大きな成果を実証しており、今後、民間・公共を問わず積極的に導入されていくと考える。この移動と対面を抑制する勤務形態、学習形態、あるいは診療形態等を捉えた政策方針を示しているか伺う。

答 本市は、以前から企業や大学のサテライト拠点づくりやテ

6月・9月議会

一般質問

「交通安全日本一」を目指して
「特別支援教育支援員」の充実が求められている



遠藤久仁雄 議員



「交通安全日本一」を目指して

問 本市では、平成29年度に「交通安全対策室」が設置され、3年後の本年度からは、これが「交通安全・地域安全課」へと拡充された。市内で発生した人身事故件数は、3年前と比較して約30%、386件減少しているが、特に追突事故や出会い頭の事故の割合が多い。また、最近目につくようになった矢羽根型路面標示と自転車標示があるが、これは道路交通法に定め



ない法定外標示。決して「自転車優先」の意味ではないので、自動車や歩行者に十分注意を払わなければならない。

示により明示した。自転車の事故防止と歩行者の安全性向上を図っている。

問 矢羽根型標示がドライバーに自転車の存在を意識させてくれる。しかし矢羽根型標示によって自転車走行が完全に守られている状況ではない。自転車利用者と自動車運転者の双方が交通ルールをもっと正しく学ぶことが必要だと感じるが如何か。

答 自転車の並走や逆走も見られるので、矢羽根型路面標示設置個所の通行方法について、学校での交通安全教室で学ぶほか、市民が話し合うワークショップ形式の研修会実施等を行っていく予定である。

特別支援教育支援員の充実が求められている

問 本市では令和元年度から、通常学級と特別支援学級の支援員を「特別支援教育支援員」に一元化し、両学級に対し分け隔てなく、効果的な支援を行なっている。近年、どの学級にも特別に支援を必要とする児童生徒が増加しているための措置である。有効な取り組みなので、コロナ終息後も引き続き手厚い支援をお願いしたいと考える。

問 本年度74名の「特別支援教育支援員」により事業を始めたが、コロナ禍の長期休業に配慮し、5月補正予算で急遽40名の支援員の増員確保に向け努力された。どのような効果が見られたか伺う。

答 予期せぬ長期の休業により、特に小学校の新入生など低学年の児童にとっては、集団生活への適応や心理的な不安を除く等、大きな助けになった。5月末から増員された支援員体制により、より丁寧に児童に寄り添うことができ、児童の気持ちの安定や学校生活への適応に大きな成果を上げている。

問 本事業の課題をどうとらえているか。

答 支援員としてふさわしい人材を確保することが一番の課題だと考えている。支援員となる資格は特にないが、児童生徒への愛情、成長や発達に関する理解、また教職員と一緒に児童生徒に向かい合っていく協働性などが求められる。

問 小学校低学年への配置の必要性については、十分に理解した。しかし中学校では、別室登校の生徒が数多く見受けられる。増員が必要ではないか。

答 登校はできても教室に入ることができない生徒への対応も必要と考える。少しでも多くの人材を確保するよう努力する。

6月・9月議会 一般質問



増田 克彦 議員



〔6月〕
〔9月〕
「新たな日常」とテレワークについて

避難所における 感染症対策について

問 避難所開設訓練を踏まえて今後の展開を伺う。

答 スムーズな受け入れのために、避難者に「健康状態チェックカード」を事前記入して持参してもらう。また、換気対策として大型扇風機の配備などを予定。今後、新型コロナウイルス対策を踏まえ、本市の「避難所運営マニュアル」や国のガイドライン等を基に、各地区の防災リーダーの協力を得ながら、各避難所単位で自主防災会が作成している「避難生活計画書」に必要な感染症対策を反映させ、開設訓練を実施していく。

問 避難所へのベッド、パーテーションの導入は、5月度



補正予算で高さ180cmのパーテーション1420張、高さ50cmの簡易ベッド2840基を今年度中に確保する。

「新たな日常」と テレワークについて

問 「テレワークオフィス藤枝駅前」の稼働状況について伺う。

答 障害者を対象としたテレワークオフィスで「一般社団法人静岡障害者就業交流会」が運営主体。昨年の開所以来、4名の障害者を持った方が体験利用し、3名が一般就職した。うち2名が引き続きこのテレワークオフィスに通勤している。



※議会答弁の後、さらに3名の内定者が決定した。うち2名は県外企業への就職。

問 クラウドソーシング「藤枝くらシア」の稼働状況について伺う。

答 市民ワーカーの数は、450人超。受注総額は、昨年度が約1390万円、本年度は4月から7月までの4カ月で既に約740万円となっている。首都圏企業の、コロナ禍における社員の出勤調整等による業務外注

ニーズを取り込み、案件の相談が相次いでいる。

問 在京企業からのテレワークオフィス、サテライトオフィスの誘致の状況を伺う。

答 10月にBiVi内「アイティ・ブック・ホールディングス株式会社(本社東京の主要オフィスが開設される。最大30人の従業員のうち20人は現地採用の予定。第2、第3の誘致に向け、県東京事務所とも連携しながら、中心市街地の利便性や中山間地域の豊かな自然、首都圏へのアクセス性などの強みを活かし、移住施策と一体的に取組んでいく。問 ワークেশョンに関する本市の取組を伺う。



答 首都圏企業へのニーズ調査をはじめ、蓮華寺池公園や大旅籠柏屋など本市独自の名所を周遊するプランや、農業体験を含めた体験型観光プランを提案するとともに、旅行会社や市内宿泊施設に対しては、ワーケーションの積極的な展開を働き掛けていく。また、中山間地域においては、ゆったりとした自然の中でのアウトドアレジャーで人気の高い、大久保キャンプ場でのワーケーションを推進していく。

「藤枝市議会提言書」等と重複しない内容

会派から北村市長へ提言

10月22日(木)、志太創生会
は本市の令和3年度予算編成に
向けた提言書を北村市長に提出
した。提言内容については、3
常任委員会(総務文教・健康福
祉・建設経済環境)がまとめた
「藤枝市議会提言書」(10月20
日提出)の提言事項と「決算特
別委員会事業評価書」(10月20
日提出)の提言内容と重複しな
いよう配慮した。

①総合運動公園サッカー場の
J2規格改修と併せた駐車場の
確保について。②「陶芸村構想」
十「ゆらく」による中山間地域

拠点づくりについて。③農地集
積化と農地除外化の合理的政策
で定住・移住の基盤づくりを。
④急増する生活困窮者へのサポ
ート体制について。⑤高齢者及び
運転免許証返納者の移動支援に
ついて。⑥要配慮者の災害時避
難体制の整備について。⑦浜岡
原子力災害の避難計画策定につ
いて。⑧中山間地域の小学校を
存続させるための学区弾力化に
ついて。

以上の8項目について、北村
市長、河野副市長、大畑副市長
に提言理由を説明した。



●10月22日(木)、平井代表から北村市長に提言書を提出する。
(左から、増田克彦議員、平井登議員、遠藤久仁雄議員、北村正平市長)

GIKAI TRIAL

議員研修

コロナ禍により、議員の研修会や行政視察が自粛される中、10月13日(火)市役所会議室において、ズームを使ったリモート研修会が行われた。更新予定のタブレット閲覧ソフト「サイドボックス」の使い方について、東京にいる講師をスクリーンに映しながら、タブレットを手に学習した。



議会改革特別委員会が主催したリモート研修は約3時間に及んだ。

議会雑観

私たちは、今後も続くコロナ禍での生活について、真剣に考えていかなければならない。そこで今回はコロナにかかわる、いくつかの情報を提供させていただいた。これからも知恵や工夫、我慢や協力、思いやりなど様々なことが要求されると思う。世界が一刻も早くこの感染症を克服できることを強く望んでいる。(遠藤)